

# いわき市中小企業・小規模企業振興会議 議事録

## 1 会議概要

(1) 開催日時 令和4年3月23日(水) 14:00~15:00

(2) 開催場所 いわき産業創造館 会議室1

(3) 出席者(順不同・敬称略)

○ いわき市中小企業・小規模企業振興会議委員(12名中9名出席) (順不同、敬称略)

区分	所属等	職氏名等		出欠
中小企業・小規模企業	福島県中小企業家同友会いわき地区	副会長	丹野 勇雄	出席
	いわき経済同友会	副代表幹事	小松 ひと美	出席
大企業	いわき商工会議所	市内大手企業復旧・復興懇談会	佐藤 博史	出席
		事業理事		
中小企業団体等	いわき地区商工会広域連絡協議会	主幹	川島 秀一	出席
	いわき産学官ネットワーク協会	インキュベーションマネージャー	奥瀬 円	欠席
	支援関連等専門家	NPO 法人 TATAKIAGE JAPAN 理事長	小野寺 孝晃	出席
		税理士	木幡 仁一	出席
		マーケティングアドバイザー	橘 あすか	欠席
金融機関	日本政策金融公庫	いわき支店長	津村 政人	代理出席 (課長 武田 純知)
	ひまわり信用金庫	常勤理事兼営業推進部長	児玉 武彦	欠席
	いわき信用組合	専務理事	本多 洋八	出席
関係行政機関	いわき市	産業振興部長	小松 尚人	出席

○ 事務局(7名)

所属等	氏名等	
産業創出課	課長	大平 賢一
	課長補佐	植野 勝
	係長	山下 大輔
	主査	佐藤 隆太
	主事	森田 翔平
商業労政課	課長	荒木 学
工業・港湾課	課長	七海 満

(4) 次第

① 開会

② 協議事項

・令和3年度事業報告について

・令和4年度事業計画について

③ その他

④ 閉会

## 2 内容等

### 【令和3年度事業報告に関する意見交換】

事務局より、現在進行している令和3年度事業報告を行い、委員間での共有を図った。

- ・「企業・ひと・技」応援ファンド
- ・ワークシフト促進事業
- ・経営改善支援事業
- ・「がんばっ Pay いわき！」応援キャンペーン
- ・新型コロナ市内経済影響実態調査

委員間での意見交換の概要は次のとおり。（発言順）

#### A 委員

- ・いわゆる「コロナ融資」の据置期間が到来する企業が今後多くなってくることを踏まえ、経営改善支援事業などを活用して、そうした企業を支援していきたいと考えている。
- ・以前と比べ、個人負担が重荷となっている企業も多く、経営改善支援事業はそうした企業が大きな一歩を踏み出す際のきっかけになっている。

#### B 委員

- ・新型コロナ市内経済影響実態調査にもあるように、コロナ禍で中小企業は多くの課題を抱えており、こうした状況で多くの支援策があることはありがたい。
- ・高齢化や事業承継など、平時からの課題が早まってきていると感じている。

#### C 委員

- ・新型コロナ市内経済影響実態調査について、我々が気づいていなかったことも明らかにしてくれたので、今後の支援の参考にしたい。
- ・感染症以外にも様々な社会的事象があり、支援機関として、数ある支援策の中でそれぞれの企業の実情に即した支援を適切に案内することが課題になっている。

#### D 委員

- ・オンラインによる副業マッチングが増えており、そうした方がワーケーションで実際にいわきに来ていただく、新現役交流会等と連携するといったことができれば、新たな価値が生まれるのではないかと思う。
- ・「企業・ひと・技」応援ファンドについて、調達資金は市外からも獲得できているのか？  
→（関係委員より説明）  
市外から応援してくださっている方の比率が高まっていると見ている。

#### E 委員

- ・ファンドに関連して、特定のエリアで特定の人だけがお金を動かしただけでは持続的な成長にはつながらないと思うので、市外からの資金調達ができている点は確認できてよかった。
- ・「がんばっ Pay いわき！」応援キャンペーンについて、キャッシュレスを使用したのがキャンペーン期間中だけで終わるのではなく、次につながるような情報が得られればよいと思う。

## F 委員

- ・これまでの事業を振り返ってみると、いずれも発信力のある取組みだと評価している。
- ・副業人材の取組みについては、県内で最も成功している地域だと思う。
- ・分野の異なる多様な取組みを通年で実施してきたことは大変有意義である。
- ・副業人材とのマッチングや新現役交流会を実施するにあたっては、なるべくイベント感を出し、次年度以降につながるような発信力を持てるように意識した。

## G 委員

- ・新型コロナ市内経済影響実態調査について、経営状況がコロナ禍前には戻らないなど、我々が経営者から受けている相談内容と全く同じ結果となっている。
- ・事業者自体が若干足踏みしている状況なので、我々としても今後の支援の方針を手探りしている状況であり、各委員の専門的な意見や経営者からの相談を踏まえ、適切な支援を行っていきたい。
- ・副業人材の活用は経営者の気づきになるきっかけとして大きいものだと思うので、事業者への情報周知を行い、伴走型支援に力を入れていきたい。

## H 委員

- ・「企業・ひと・技」応援ファンド事業の副産物として、専用のYouTubeチャンネルが開設されたところであり、こうしたサイトの運営を通じて、今後ますます盛り上がることを期待している。
- ・副業人材の活用は非常に安い経費で大きな効果を得られたという声も聴いており、小規模企業のみならず、中小企業でも大きなニーズがあると感じている。
- ・飲食店等を想定した簡易な経営改善シートの普及、リスク等を目的とする経営改善計画の策定を経て、企業の倒産を抑制するという流れを関係機関で共有し、支援に努めていければと思う。

## I 委員

- ・事業者が安定して経営していくため、いかにして周りの変化に対応していかなければならないのかという難しさを痛感している。
- ・事業者が変化に対応できるようにするためにも、挑戦する人を地域全体で受け止められる基盤を整備していく必要がある。
- ・日本全体の大きな変化として人口減少問題があり、市場は縮小し、人も減少している状況にある。
- ・変化の中で挑戦していくためにも、健康診断・処方箋を受け、事前に自分の状態を把握することができる経営改善支援事業は起点になると考えている。
- ・ワークシフト促進事業には関係人口の増加という狙いも含まれており、今後の課題として、増えた関係人口をどのようにリアルな人口に変えていく施策を考えなければならない。
- ・キャッシュレス決済キャンペーンの狙いの一つであったニューノーマルへの対応については、データをしっかり分析し、新しい行動変容を明らかにしていかなければならない。

## 【令和4年度事業計画について】

事務局より、現在進行している令和4年度事業計画を行い、委員間での共有を図った。

- ・いわき市事業再構築促進補助金
- ・中小企業等 SDGs 推進支援事業
- ・(仮称)いわき市企業ガイドブック&マップ
- ・知的資産経営セミナー(事業承継支援事業)

委員間での意見交換の概要は次のとおり。(発言は挙手に基づく)

### E 委員

- ・知的資産経営セミナーについて、報告書の公表を目標としているが、ここで内容として取り上げる企業価値は属人的なものも少なくなく、そうした個人情報に近いものの公表は難しいところがあると思う。

### D 委員

- ・知的資産経営報告書をカルテと表現しているが、各支援機関がカルテを共有し、事業者に対して行ったアドバイスをカルテ内に記録していくという形をとれば効果的だと思う。

### H 委員

- ・評価の高い飲食店などが後継者不在などから辞めてしまったとき、地域にとっての資産価値を失ってしまうことにもなるので、そういった事業者に気づきを与える流れを作ればと思う。

### I 委員

- ・知的資産経営セミナー事業においては、我々支援機関がかかりつけ医的な立場に立ちながら、企業の本質を自他共に認識していくことが最も重要な価値になると思う。
- ・SDGsの推進や事業再構築の支援は、挑戦という意味で非常に重要な取組みであり、支援機関一丸となって伴走支援を実施していきたい。